

平成28年度第1回滝沢市社会教育委員会議事録

- 1 件 名 平成28年度第1回滝沢市社会教育委員会議
 2 日 時 平成28年11月7日(月)午後2時40分～午後4時25分
 3 場 所 交流拠点複合施設ビッググループ滝沢 大会議室
 4 出席委員

委員15人のうち11人の出席であり、規則第5条に基づき会議は成立する。

N o	氏名	役職	所属など	出欠
1	嶋野 重行	議長	盛岡大学短期大学部 教授	○
2	柳橋 好子	副議長	滝沢市地域婦人協議会長	○
3	齊藤眞理子	委員	滝沢小中学校長会(篠木小学校長)	○
4	主濱 恵悦	委員	滝沢市子ども会育成連合会長	○
5	下田 富幸	委員	滝沢市自治会連合会長	○
6	昆野 善孝	委員	滝沢市PTA連絡協議会長	—
7	高橋 弘美	委員	滝沢市芸術文化協会長	○
8	切金 一夫	委員	滝沢市少年補導員連絡会長	○
9	松田 栄二	委員	国立岩手山青少年交流の家 所長	○
10	藤田 重治	委員	滝沢市教育振興運動推進協議会長	○
11	小森 彰宏	委員	グリーンワークス	—
12	大畑佳代子	委員	岩手日独協会事務局	○
13	小島 勝子	委員	岩手県レクリエーション協会 副会長	—
14	菅野 道生	委員	岩手県立大学 社会福祉学部 講師	—
15	小向 和秀	委員	日本赤十字社岩手県支部 J R C 担当	○

5 出席職員

N o	氏名	所属・役職など
1	熊谷 雅英	教育委員会教育長
2	野中 泰則	教育委員会事務局 教育次長
3	長嶺 正治	教育委員会事務局 生涯学習文化課長
4	日向 由和	教育委員会事務局 スポーツ推進課長兼国体推進室長
5	村上 斉	教育委員会事務局 生涯学習文化課 総括主査
6	細川 健一	教育委員会事務局 生涯学習文化課 主査
7	瀬川 光	教育委員会事務局 生涯学習文化課 主査
8	熊谷 大輔	教育委員会事務局 スポーツ推進課 主査
9	井上 雅孝	教育委員会 埋蔵文化財センター 主任主査

6 傍聴人 なし

7 会議内容

- (1) 開 会
- (2) 委嘱状交付
- (3) 教育長あいさつ
- (4) 議事録署名人任命
- (5) 報告
 - ア 平成28年度社会教育事業の進捗状況について
- (6) 協議
 - ア 平成29年度社会教育行政の方針と計画（案）について
 - イ 平成29年度社会教育関係等団体に対する補助金の交付について
- (7) その他
 - ア 第1次滝沢市生涯学習推進計画「学びプランたきざわ」に基づく生涯学習関連施策の展開について
- (8) 閉 会

8 質 疑 等

- (1) 報告
 - ア 平成28年度社会教育事業の進捗状況について
- 委員 ふれあいまちづくり出前講座が9月末現在で実施件数33件、参加人数延べ927人となっているが特定メニューへの集中などはどうか。
- 事務局 健康づくりに関する講座の人气がとても高い。また、飲料水への関心もあることから上下水道部などへの依頼も多い。今後、市民ニーズに応じたメニュー構築を考えていきたい。
- 委員 なぜ、第1回目の滝沢市社会教育委員会議を秋に行うのか。開催時期を再考してはどうか。岩手県や東北地区ジュニアリーダー大会派遣をジュニアリーダーズクラブ「クレヨン」からの希望者がなく派遣できなかったとのことであるが、対策を講じ、派遣を続けてほしい。
- 事務局 社会教育委員会議は、かつては年3回（5～6月に第1回目と10～11月に第2回目、2月に第3回目）開催したが、財政事情により現在は、年2回（10～11月に第1回目と2月に第2回目）開催となった。
ジュニアリーダーズクラブクレヨンは、かつては20人の時期もあったが、現在は9人と大きく減少した。メンバー募集方法などを今後、検討したい。
- 事務局 昨年度の社会教育委員会議は長年に渡りご尽力いただいた竹田議長が勇退なさったことから第1回目会議を7月に行った経緯がある。
- 委員 クレヨンメンバー募集を呼び掛けているが、入会には至らない。現在の高校三年生リーダーが卒業してしまえばメンバーは全員中学生のみとなる。
- 委員 市内中学校や高等学校生徒会を対象とした市ジュニアリーダーズセミナーには毎年約50人が参加している。彼らにクレヨン入会を勧めてはどうか。
- 事務局 中学生や高校生も部活動や生徒会活動が忙しいため、クレヨンへの参加が難しいのが現状である。クレヨン会員も他のスケジュールがあり岩手県・東北大会に参加できなかった。

- 委員 岩手県・東北大会にはクレヨン以外の中学生や高校生でも参加できるので来年度は派遣できるよう市子ども会育成連合会としても取り組みたい。
- 委員 自治会対抗形式で行っている市民体育祭は今後、どのような方法での開催を目指しているか。
- 事務局 自治会対抗による市民体育祭は約30回開催してきた。昨年度から今後の開催方法について市体育協会と協議・検討を行っている。

(2) 協議 ア 平成29年度社会教育行政の方針と計画(案)について

委員 平成29年度滝沢市社会教育行政の方針(案)の基本方針を分かりやすい表現にしてはどうか。また、インターネットを活用した施設利用状況の公開を市体育施設でもできるようにしてほしい。

全てのライフステージに応じた生涯学習活動支援の充実を具体的にどのように展開するのか。生涯学習講座の土曜日や日曜日を活用した開催など働く女性でも参加しやすい時間帯など思い切った改革を取り組んでほしい。

また、生涯学習関連施策や社会教育事業に関する名称・内容など今までにない画期的な表現・表記が非常に多く、大変うれしく感じている。

国際理解・国際交流に力を入れて取り組み、「国際感覚豊かな地域づくりリーダー育成・活躍」を目指すとの姿勢から、いよいよ「滝沢市国際交流協会」の新設を視野に入れた取り組みにとっても期待している。そして、市民と市行政の連携・協働による多文化共生社会の実現を目指してほしい。

事務局 平成29年度滝沢市社会教育行政の方針(案)の基本方針については、分かりやすい表現を検討したい。

多様化する市民ニーズの生涯学習関連施策への具体的な反映や働く女性が参加しやすい土曜日や日曜日を活用した生涯学習講座開催など検討させていただきたい。市体育施設におけるインターネット活用については交流拠点複合施設ビッグルーフ滝沢との関係もあるため時間を頂きたい。

また、本年度当初に、岩手県国際交流協会事務局と協議し、講師派遣などによる国際理解・国際交流事業の展開に関する同協会と市行政との連携・協働の推進を協議した。岩手県内市の大半には国際交流協会が設置されているが、滝沢市はまだ設置されていない。国際理解・国際交流に関連性がある滝沢ユネスコ協会などと一緒に相談しながら進めていきたい。

委員 競技スポーツ振興であるが、「子どもたちの憧れであり滝沢市が誇る全国や世界、2020東京オリンピックを舞台に活躍できるトップ・アスリートの輩出を目指したい」との説明に感動した。今回の希望郷いわて国体に滝沢市出身者が28人出場しており、かつ指導者として活躍する滝沢市出身者も多かった。ぜひ、滝沢市指定強化選手・指導者育成を市や体育協会、地域そして企業などからの協賛を募りながら進めていければ素晴らしいと思う。

(2) 協議 イ 平成29年度社会教育関係等団体に対する補助金の交付について

委員 全ての社会教育関係等団体の補助金交付予定額が同額となっているが増額はしないのか。

事務局 市地域婦人協議会や市少年団体指導員協議会、市子ども会育成連合会、滝沢市青少年育成市民会議の4団体は公募補助金(平成27～29年度の3カ年)申請内容に基づくものから、3カ年はほぼ同額となる。

ただ、予算査定があるので確約はできない旨を理解していただいている。

副議長 新規事業に取り組んでも補助金増額は困難と感じている。何とか同額を維持できるように市地域婦人協議会としても頑張りたいと感じている。

(3) その他 ア 第1次滝沢市生涯学習推進計画「学びプランたきざわ」に基づく生涯学習関連施策の展開について

事務局 第1次滝沢市生涯学習推進計画「学びプランたきざわ」を平成28年3月に策定し、4月より施行開始した。

市長部局と教育委員会が連携を強化し市行政全般に関する生涯学習関連施策の展開を図るとともに、市民や地域、教育・公共機関、生涯学習関連施設、市行政などが連携・協働し、生涯学習による地域づくりを展開したい。